



夏  
時  
代  
鏡

三拾六編上

芳林堂梓

丙寅新書  
為永春  
梅蝶樓用

~ 13  
3740  
71



門へ13  
3740



時  
代  
鏡

三千六編  
その巻  
為永化



國貞堂  
あま  
の庫



天下の品物草木禽獸虫魚甲貝おのく三百六十四品の群類  
 ありとりしを此品物のつぎまゝ人間の助とわらざるもの  
 そが中より虫の部三百六十四品の悉く人間に害あり開  
 時候の不順なるより生むるもの多しと就中既量の綾錦さ  
 きぬの類を擲るるより分限を忘る不敬を生じ  
 りしに海虫の媒とわら果し命を殞とふいける然らば凶國の  
 悪虫ありしを君子の是を惡むる人蟹も化して蝶とわらば  
 這一類とるるは春辰竊み蝶を役して國家を覆さ  
 んと謀るもかの虫類に害ありといふ所以に因めらるるけり

丙寅初春

為永春水記

時代三十二

浪人小柴左門



左門  
女兒  
濱風



津出  
屋  
二三大  
浪花の市客

舟行三十二



Handwritten text at the top of the right page, including the title 'Handwritten text at the top of the right page'.



Handwritten text at the bottom of the right page, including the title 'Handwritten text at the bottom of the right page'.

Handwritten text at the top of the left page, including the title 'Handwritten text at the top of the left page'.



Handwritten text at the bottom of the left page, including the title 'Handwritten text at the bottom of the left page'.







このまはらひかゝる  
まはらひのまはらひ  
とてなりやういふ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ

うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ

寺  
七



このまはらひかゝる  
まはらひのまはらひ  
とてなりやういふ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ

うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ  
うたをえあひせ

月  
十  
三  
六











